

トビウオ通信 (H26 第 9 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 26 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 26 年 10 月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の平成 26 年度下半期（11～3 月）の中・長期的な漁況を予測します。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 26 年度下半期(11～3 月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並み

マイワシ:前年を下回る

カタクチイワシ:前年並み

ウルメイワシ:前年を下回る

※平年：過去 5 年間の平均値

マアジは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 平成 19 年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成 20 年からやや増加傾向となり、平成 23 年は約 4 万 6 千トンとなりました（図 1）。平成 24 年は再び減少に転じ、平成 26 年 1～9 月の漁獲量は約 2 万 7 千トンで、前年並みで推移しています。

沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は、来遊量が前年並み、また、直近の漁況や調査船調査の結果などから前年並みになるとみられています。一方、同海域の沿岸域における平成 26 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年並みでした。今後（11～3 月期）の漁況は、前年を上回り、平年並みになると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量は平成 13 年以降 2～3 万トン前後で推移しています（図 1）。平成 26 年の 1～9 月のマアジ漁獲量は約 2 万 7 千トンで、前年同期の 1.1 倍、平年同期の 1.5 倍でした。今年は 3 月を除いて 2 千～3 千トン程度の漁獲があり、7 月以降は増加に転じ、9 月には約 7 千トンの漁獲がありました（図 2）。

例年、11～3 月期は 0・1 歳魚が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲されます。長期漁況予報会議では、マアジ 0 歳魚（H26 年生まれ）の豊度は前年を下回ると予測しています。しかし、毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査*（マアジ 0 歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を上回り、漁獲も好調であることから、島根県における 0 歳魚の豊度は前年を上回ると考えられます。また、1 歳魚（H25 年生まれ）と 2 歳

*マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 H26 年第 7 号（平成 26 年 8 月 28 日発行）」をご覧ください。

魚（H24年生まれ）の豊度は、これまでの漁況経過から、前年並みか前年を下回ると考えられます。従って、山陰沖の今後（11～3月期）の漁況は、前年（約6千トン）並みと予測されます。

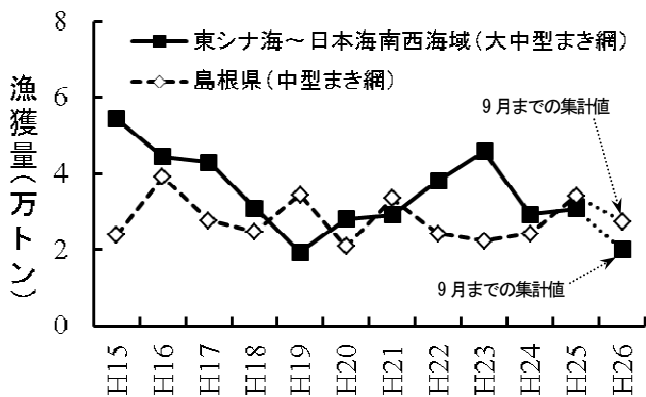


図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジ漁獲量の推移
※H26は9月までの集計値

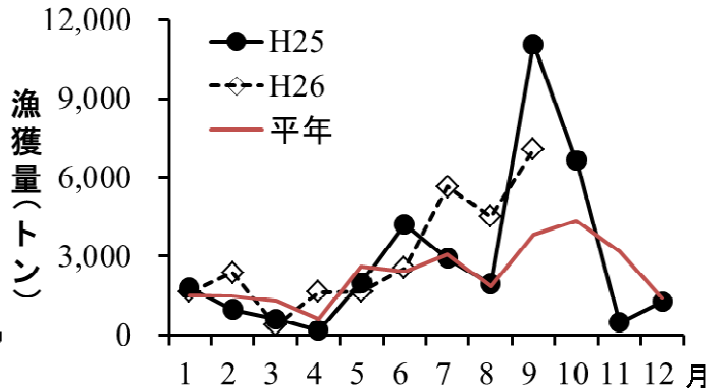


図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成19年以降増加傾向にありましたが、平成22年から減少傾向となり、平成25年は2万4千トンとなりました（図3）。平成26年は1～9月の漁獲量が約1万トンで、前年を下回って推移しています。

沖合域の今後（11～3月期）の漁況は、来遊量が前年並みであることを反映して、前年並みであるとみられています。一方、同海域の沿岸域における平成24年4～8月期の漁獲状況は、不調だった前年を上回り、平年を下回りました。直近までの漁獲状況から今後（11～3月期）の漁況は、前年を上回るものの平年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成15年から1万～1万5千トン程度でほぼ横ばいで推移しています（図3）。平成26年の1～9月の

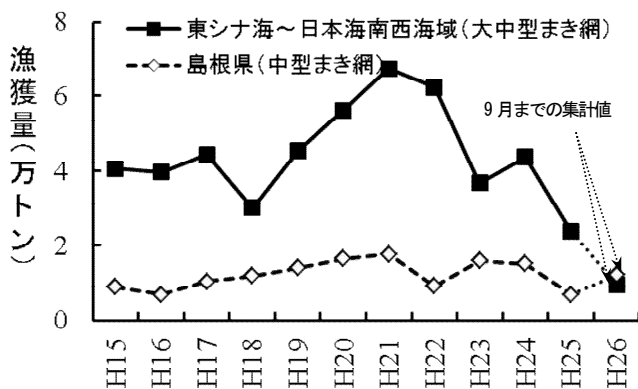


図 3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H26は9月までの集計値

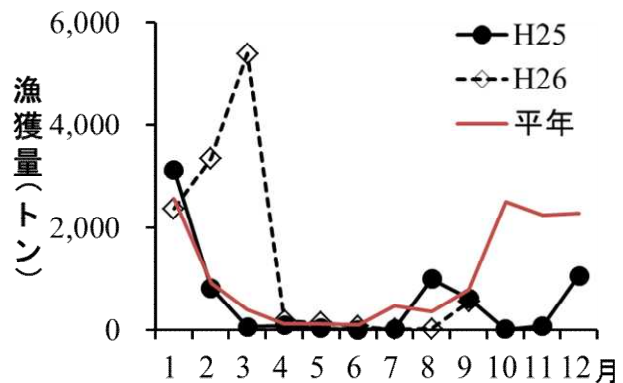


図 4. 島根県の中型まき網によるサバ類の月別漁獲動向

漁獲量は約1万2千トンで、前年・平年同期の2.1倍でした。例年、10月以降が主漁期となり、0歳魚主体の漁獲で1歳魚以上が混じります(図4)。0歳魚(H26年生まれ)、1歳魚(H25年生まれ)の来遊量は、これまでの漁況経過から前年並みであると考えられ、漁獲量も9月に600トン、10月に100トンと前年と類似した動向を示していることから、山陰沖の今後(11~3月期)の漁況は、前年並み(約1万2千トン)になると予測されます。

マイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成12年から平成22年までは多い年で4千トン程度でしたが、平成23年以降急増し、平成25年には3万6千トンの漁獲がありました。しかし、平成25年は全くと言って良いほど漁獲が無く、1~9月の漁獲量は850トンと、平年を大きく下回りました(図5)。

山口県~長崎県の沿岸域では、4~8月期は佐賀県が前年を上回り、他県では前年並みか前年を下回る漁況でした。平成26年生まれの豊度の評価は、漁況の経過から前年を下回ると考えられます。本県沿岸における今後(11~3月期)の漁況は、10月に入っても殆ど漁獲が無い事から期待はできず、前年(約5千トン)を大きく下回ると予測されます。

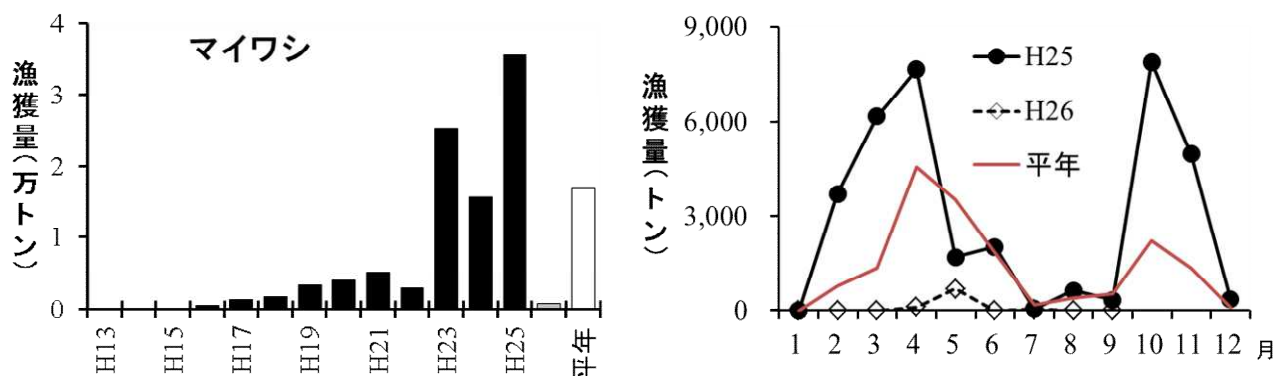


図5. 島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向(左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す) ※H26年は9月までの集計値

カタクチイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成13年に漁獲が激減した後、増減しながら1万トン前後で推移しています。平成26年のこれまでの漁況は、主漁期である3~4月にまとまった漁獲があり、1~9月までの漁獲量は約1万トンで、前年同期の1.3倍・平年同期の9割でした(図6)。

過去5年間でみると、11~3月期は3月以降が主漁期で、1・2歳魚が漁獲の主体となります。山口県~鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、カタクチイワシの1歳魚(平成25年春生まれ)は前年並みとされています。従って、本県沿岸における今後(11~3月期)の漁況は、3月が主漁期となり、前年並み(約5千トン)になると予測されます。

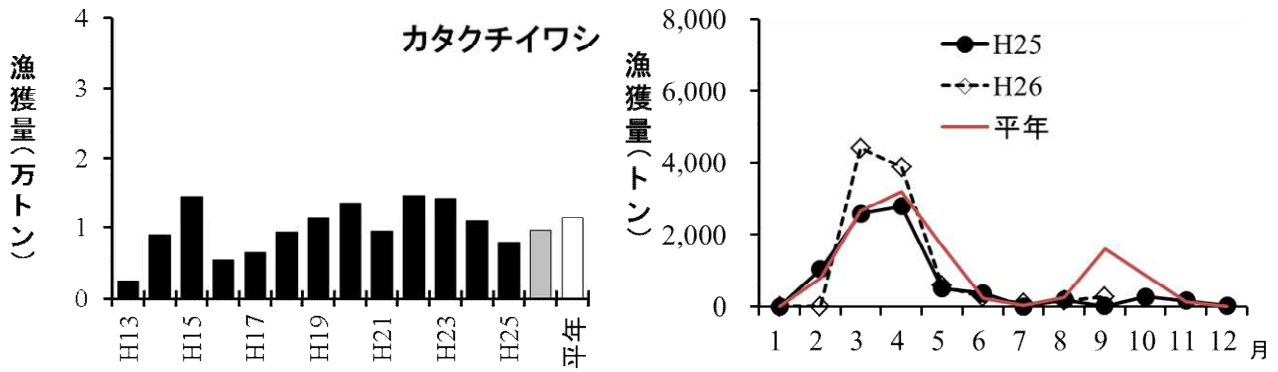


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H26年は9月までの集計値

ウルメイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成23年に1万6千トンと豊漁だったものの、近年は概ね4千～9千トンで推移しています。また、昨年は約1万3千トンの漁獲があり、再び豊漁となりました。

平成26年のこれまでの漁況は、1～9月までの漁獲量が550トンで、前年同期の3割・平年同期の2割で推移しました（図7）。

例年、11～3月期は、0・1歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0歳魚（H26年生まれ）の豊度は前年並み、1歳魚（H25年生まれ）は前年を上回ると考えられています。

しかし、本県は例年10月にまとまった漁獲がありますが、今年10月の漁獲は200トン（速報値）とほとんど漁獲されていないことから、本県沿岸における今後（11～3月期）の漁況は、前年（約1万トン）、平年（約4千トン）を下回ると予測されます。

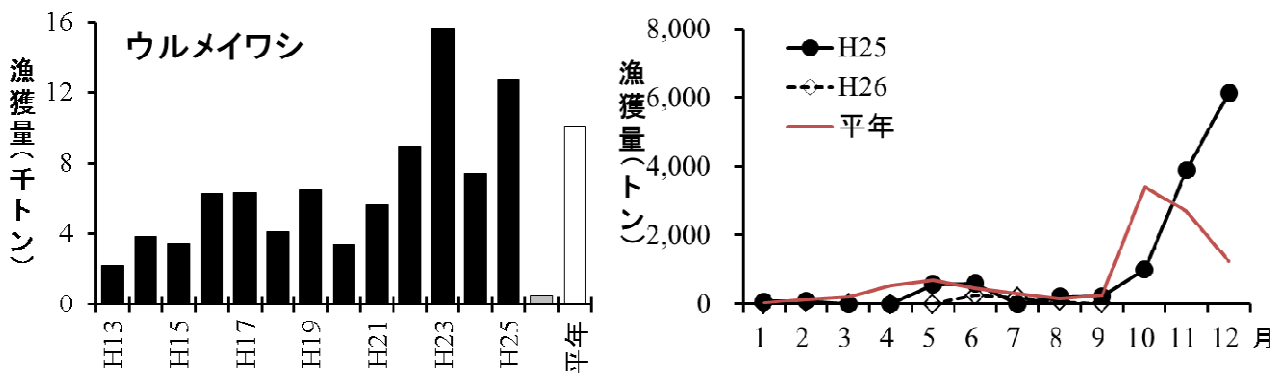


図7. 島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H26年は9月までの集計値